



昨年6月、富士山と関連する文化財群が「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録されました。区内にも、富士山信仰に関わる文化財である富士塚が5か所に残っています(内1か所は、非公開)。

古くから富士山を霊山とする信仰はありましたが、江戸時代には民衆の間にも広まり、江戸時代中頃から昭和初め頃にかけて、富士山登拝を目的とした富士講と呼ばれる信仰者の集まりが各地に結成されました。

富士講は、大山(神奈川県伊勢原市)へ登拝する大山講、木曾御嶽山(長野・岐阜県境)へ登拝する御嶽講などとともに山岳信仰の講として、かつては区内でも盛んでした。古文書や石碑銘などには丸吉講、丸祓講、丸嘉講などが確認できます。

富士講が盛んになると、江戸を中心とした近辺には、富士山から運んできた溶岩などを配して富士山を模した塚がいくつも築かれました。これが富士塚です。富士塚に登拝すれば、富士山に登ったのと同じ「利益」があると信じられました。

現在、区内では講による富士参詣は少なくりましたが、富士塚の山開きなどの行事が続いている講もあります。

ここで紹介する4つの富士塚は、特定の期間のみ公開される「江古田の富士塚」以外は、いつでも公開されています。ぜひ区内の富士登山を楽しんでみてください。

「江古田の富士塚」

国指定重要有形民俗文化財
区登録有形民俗文化財
(小竹町1-59 浅間神社)

江戸時代後期に小竹丸祓講(旧下練馬村・中荒井村・中村・上板橋村の各講の連合)によって築かれました。「江古田富士」とも呼ばれます。円墳状で高さ約8m、直径約30mです。都内の富士塚のなかでも規模の大きなものです。塚の一部が富士山の溶岩で覆われています。

大正12年(一九二三)関東大震災の際に損壊しましたが、その後復旧工事が行われました。平成23年の東日本大震災の際にも、頂上の石宮台座の破損、溶岩の崩落、石造物の傾きなど被害を受けましたが、翌年9月に復旧工事を完了しました。

山開きは7月1日です。ふだんは非公開ですが、1月1日〜3日、および9月第2土・日曜日(浅間神社の祭礼)に参詣者に開放されます。

【行き方】西武池袋線 江古田駅下車 北口(武蔵野音大方面)を出てすぐ



江古田：駅前にして深山の趣

「中里の富士塚」

区指定有形民俗文化財
(大泉町1-44 八坂神社脇)

明治時代初め頃に丸吉講により築かれたと伝えられる富士塚です。文政5年(一八二二)の石碑があることから、築造は江戸時代後期まで遡る可能性があります。南側の基部からの高さが約12m、径は30mあり、区内でも大きな規模のものであります。

石造物も数多くあり、区内で唯一の道祖神の石碑もあります。現在も地元の富士講によって毎年行事が行われています。山開きは8月1日です。

【行き方】①西武池袋線保谷駅南口からみどりバス「光が丘駅」行に乗り、分
②都営大江戸線保谷駅南口行に乗り、分

「別荘橋」バス停で下車徒歩3分

「下練馬の富士塚」

区指定有形民俗文化財
(北町2-41 浅間神社)

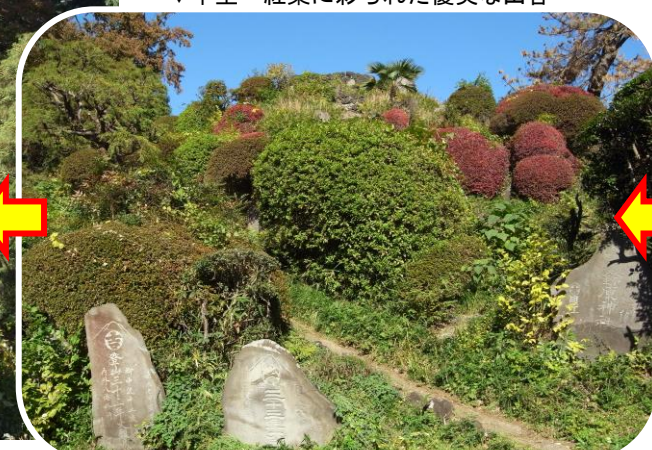
江戸時代に下練馬上宿・中宿の丸吉講により築かれたと考えられている富士塚です。高さは約5m、径は約15mです。明治5年(一八七二)と昭和2年(一九二七)に修復工事を行っています。現在も町会の有志により、7月1日に山開きが行われています。

【行き方】①都営大江戸線光が丘駅からみどりバス「東武練馬駅入口」行に乗り、北町二丁目東 バス停で下車してすぐ
②東武東上線東武練馬駅下車南口を出て徒歩4分



下練馬：溶岩をまとった雄々しい山容

中里：紅葉に彩られた優美な山容



下練馬：山頂からの眺望。賑やかな商店街を望む。

中里：山頂からの眺望。山頂に立つと怖いくらいに高い。遠くに石神井公園ピアレスのビルが見える。

「氷川神社富士塚」

区指定有形民俗文化財
(北町8-22 氷川神社境内)

氷川神社の鳥居脇に丸吉講により築かれた富士塚です。北側基部からの高さは約3.7m、径は約15mです。築造時期は不明ですが、配置される石造物から江戸時代の可能性がります。現在、講は消滅し、行事などは行われていません。

【行き方】都営大江戸線光が丘駅からみどりバス「東武練馬駅入口」行に乗り、北町三丁目 バス停で下車徒歩10分



氷川神社(山容)：とってもコンパクト

